

# 住宅地における除雪の実態に関する調査

## 背景と目的

- ・高齡化が進む北海道では、除雪の負担から住み続けることが困難なケースが増えているといわれています。しかし、各家庭の除雪作業の実態は、調査例が極めて少ない現状です。
- ・本研究では、自治体の除雪サービスの現状を把握するとともに、道内の戸建て住宅地を対象にして、除雪や堆雪場所の実態、作業に使用する道具や手順を調査し、住宅の設計や自治体の雪対策支援に資する基盤データを構築することを目的としています（図1）。

## 成果

### A. 自治体による除雪サービスの現状

- ・雪対策に対する住民への支援は、融雪槽やカーポート等に対する機器導入助成が10%未満に対し、高齡者・障がい者を主な対象とした福祉除雪の実施は70%を超えています。（図2）。
- ・自治体による除雪支援は、除雪が困難な世帯への対症療法的なものが中心で、除雪作業そのものを少なくする予防的な観点にはなっていないのが多い現状です。

### B. 住宅の除雪及び堆雪場所、作業の実態

- ・雪を除ける作業は、主にプラスチック雪かきやスノープッシャーを使用し、積雪深の増加に伴ってスノーダンプが併用されます。30cm以上の大雪になると、ロータリー式の除雪機が使用される割合が高くなります。除雪深別に大勢を占める作業道具のパターンを把握できました（図3）。
- ・家庭における除雪の苦勞としては、「一冬季あたりの降雪回数が多い点」、「除雪をしなければならぬ面積が広い点」に集中しています。不満軽減のためには、融雪機器やカバードウォークを設置するなど、除雪作業そのものを少なくする措置が必要であることが判りました（図4）。

## 成果の活用

本研究で得た除雪作業の実態調査結果は、標準的な除雪作業費などを算出する基盤資料として、活用されます。

### 1. 除雪サービスの現状調査

- ・道内自治体へのアンケート調査

### 2. 住宅の除雪場所及び堆雪場所、除雪作業の実態調査

- ・雪の降り方別3地域の居住者を対象としたアンケート調査
- ・雪の降り方別3地域を対象とした現地調査
- ・除雪の作業パターン分析

住宅の設計・雪対策支援に資する基盤データの構築

図1 研究フロー

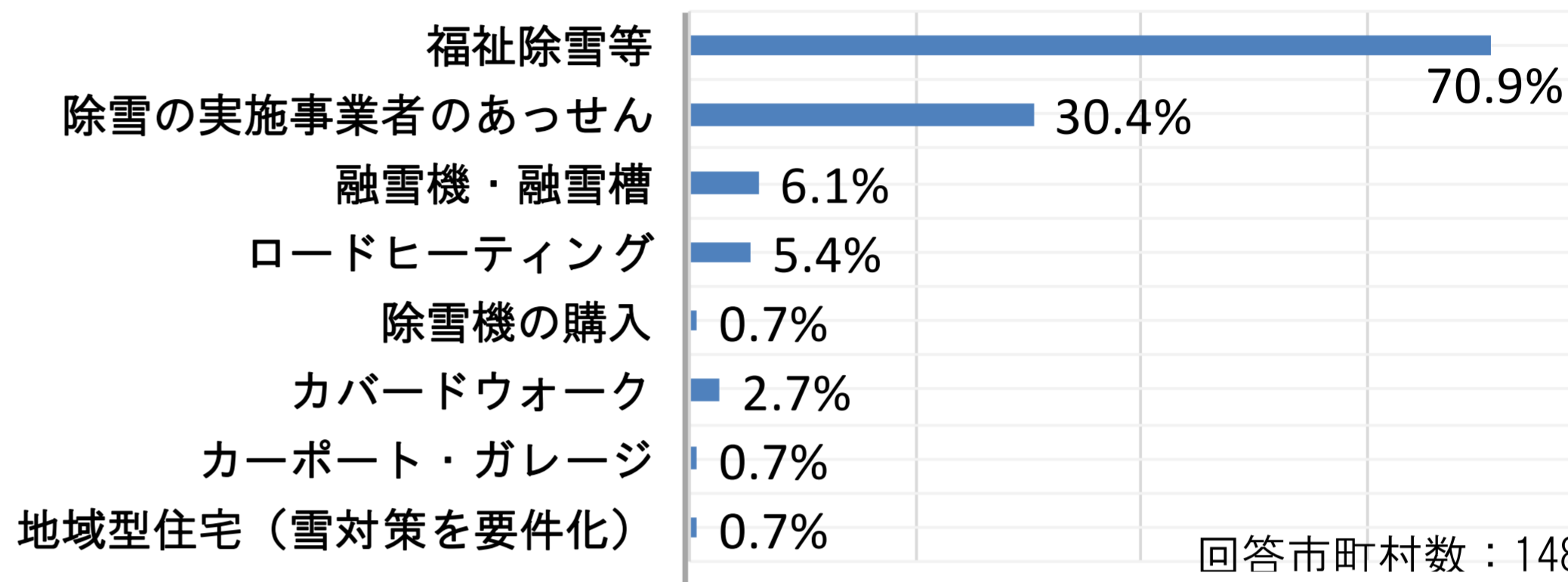


図2 自治体による雪対策支援の実施状況

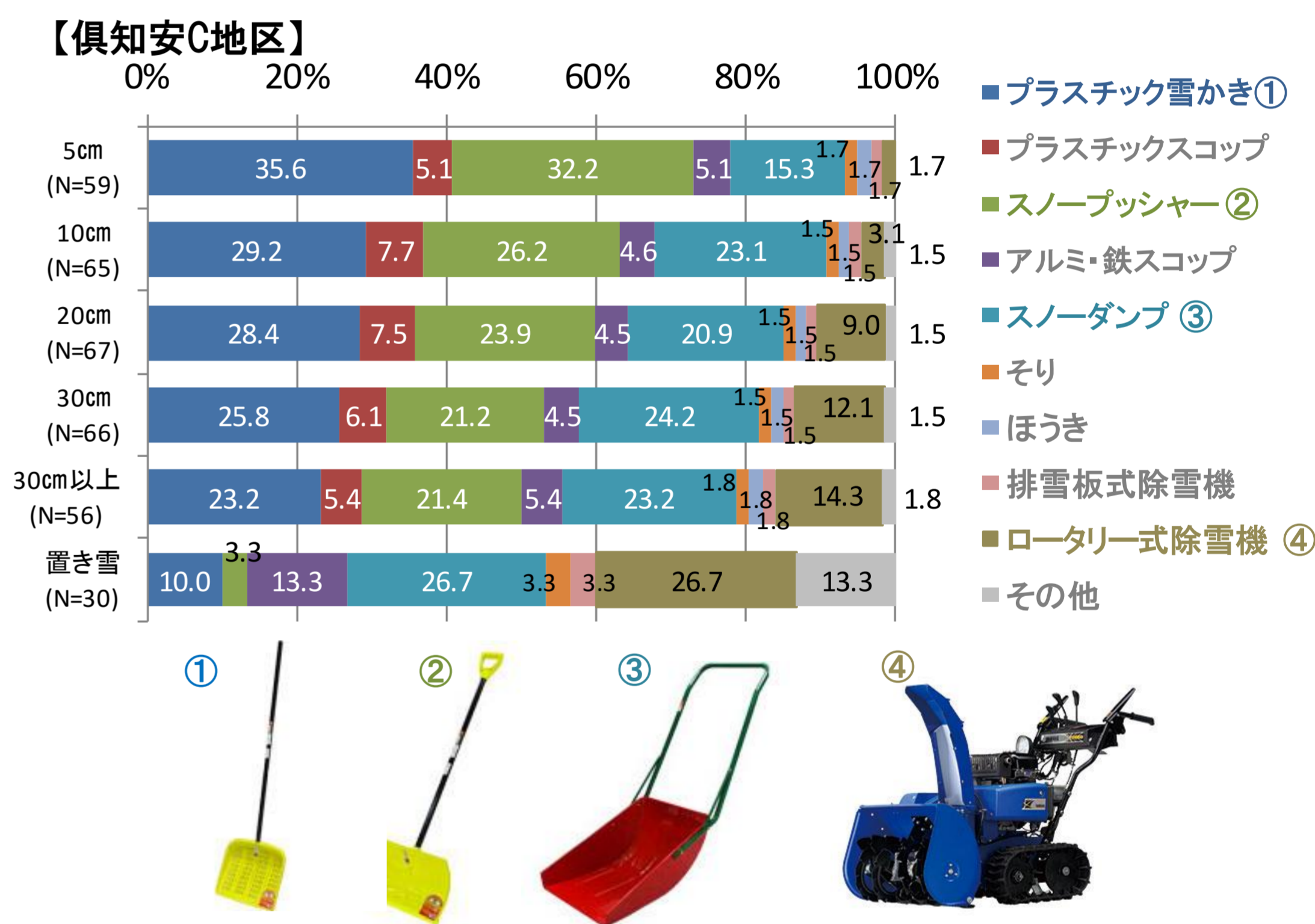


図3 積雪深毎にみた使用される除雪道具

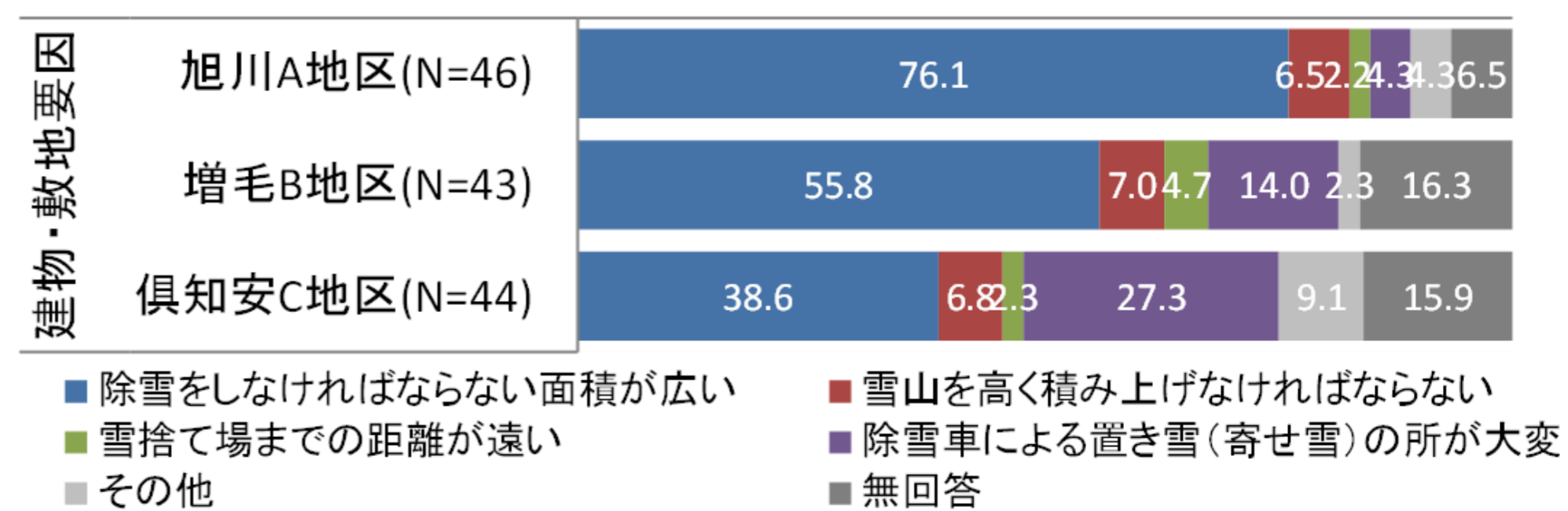
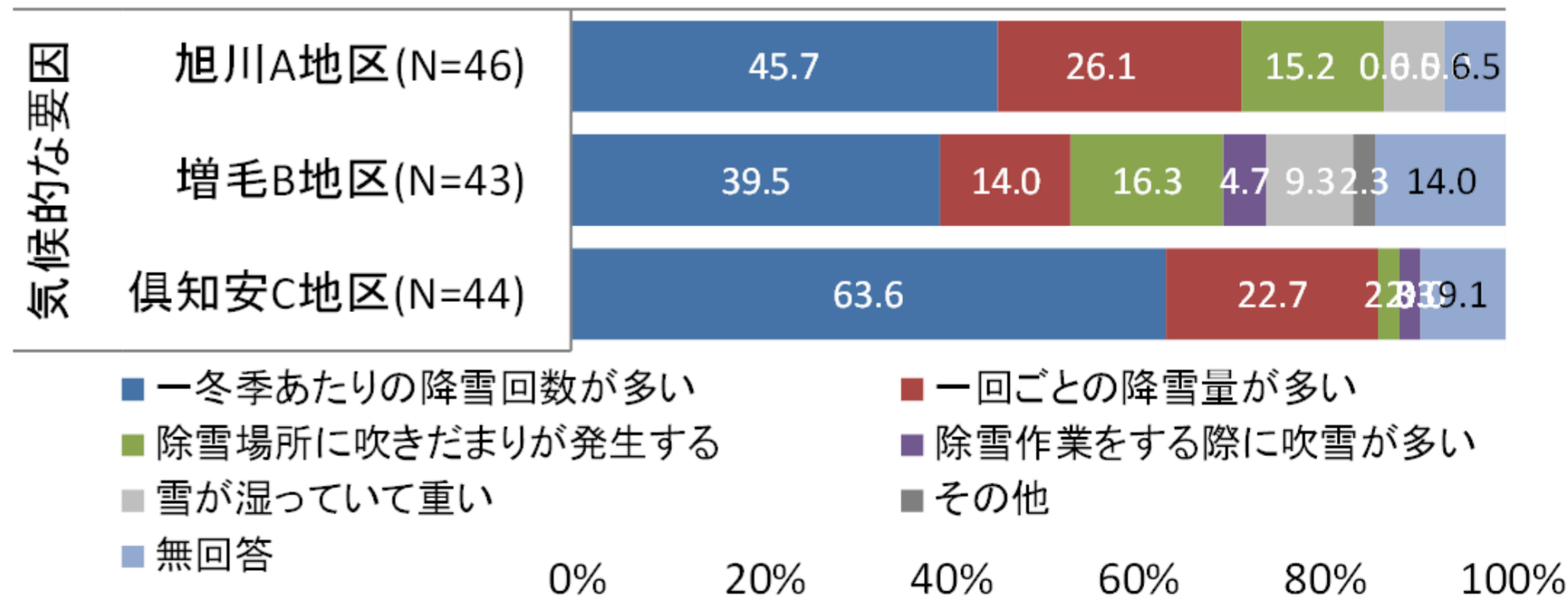
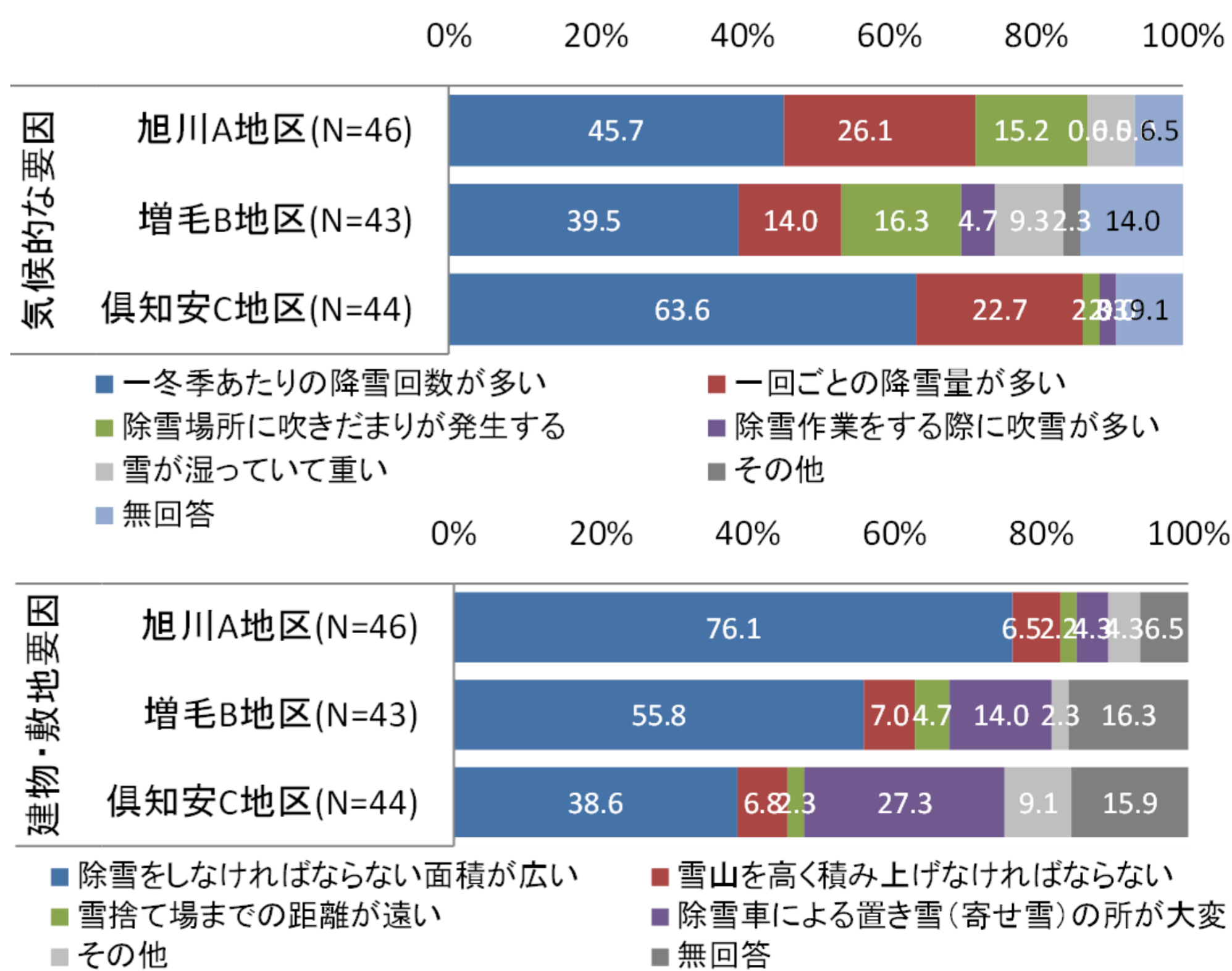


図4 除雪作業の苦勞の要因